

大阪経済の情勢

(平成 24 年 5 月指標を中心に)

平成 24 年 7 月
大阪府商工労働部
(大阪産業経済リサーチセンター)

「大阪経済は、持ち直しの動きが弱まっている」

需要面では、個人消費は、一部持ち直しの動きがみられるものの、やや弱含んでいる。輸出は、海外経済減速などの影響から弱含んでいる。住宅投資は住宅エコポイント制度などにより持ち直し、企業等の建設投資も増加。供給面では、生産(4月)は電子部品・デバイスなどを中心に低下し、全国は5月も低下。こうした中、雇用は持ち直しの傾向が続いているが、倒産は悪化。観光など、一部指標では引き続き昨年の震災の反動による大幅増が見られる。先行きについては、景気動向指数(先行)は上昇傾向で推移しているが、今後は、海外経済や為替の動向に加え、電力供給制約の影響に注意。

| | | 需要 | | | | | | | |
|----|----------------|-----------------|----------------|--------------|--------------|----------------|---------------|--------|-------------|
| | | 個人消費 | | | | 投資 | | 貿易・貨物 | |
| | 総合 一致CI(大阪) | 大型小売店 販売(大阪) | コンビニ 販売(近畿) | 家電販売 (近畿) | 新車販売 (大阪) | 新設住宅着 工(大阪) | 建築物着工 (大阪) | 輸出(近畿) | 関空取扱 貨物量 |
| 5月 | | ↘ | ↗ | | ↗ | ↗ | ↗ | ↘ | ↘ |
| 4月 | ↘ | ↘ | ↗ | ↘ | ↗ | ↗ | ↗ | ↘ | ↘ |

| | | 供給 | | | | その他 | |
|----|------------|------------|----------------|-------------|--------|-------------|----|
| | | 生産 | | 雇用 | | 倒産 | 観光 |
| | 生産 (大阪) | 生産 (全国) | 有効求人倍 率(大阪) | 失業率 (近畿) | 倒産(大阪) | 関空外国人 旅客 | |
| 5月 | | ↘ | ↗ | ↗ | ↘ | ↗ | |
| 4月 | ↘ | ↘ | ↗ | ↘ | ↗ | ↗ | |

※前年同月と比較し、上向きの矢印は、景況改善、下向きの矢印は、景況悪化。ただし、CI、生産・在庫指数、有効求人倍率は季節調整済みのため、前月との比較。倒産件数と失業率は、減少、低下が景況改善となり、上向きの矢印となる。

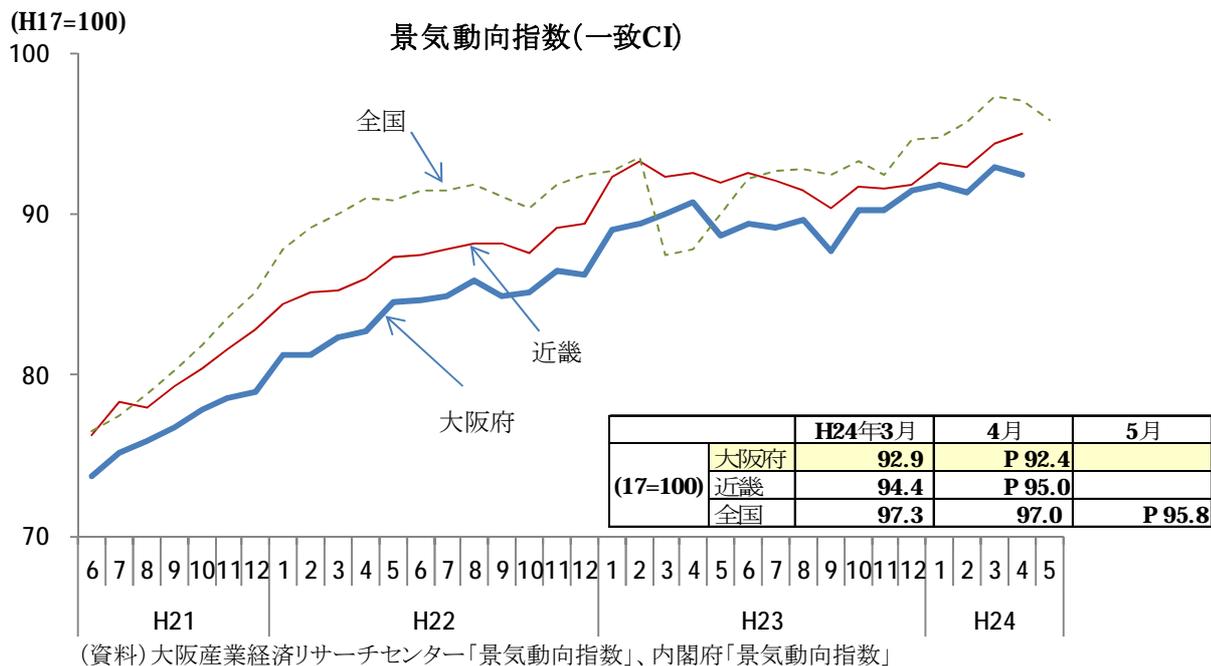
(参考)

| | |
|--------------------------|--|
| 内閣府「月例経済報告」(6月) | 景気は、依然として厳しい状況にあるものの、復興需要等を背景として、緩やかに回復しつつある。 http://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/getsurei-index.html |
| 内閣府「地域経済動向」(5月) | 近畿地域は、足踏み状態となっている。 http://www5.cao.go.jp/keizai3/chiiki/chiiki.html |
| 日本銀行大阪支店「近畿地域金融経済概況」(6月) | 近畿地域の景気は、持ち直しの動きもみられるが、なお足踏み状態にある。 http://www3.boj.or.jp/osaka/c.htm |
| 近畿経済産業局「近畿経済の動向」(6月) | 緩やかながら持ち直しの動きが続いている http://www.kansai.meti.go.jp/1-7research/doukou/kinkikeizai.html |

※以下、P は速報値を表す

[総合]

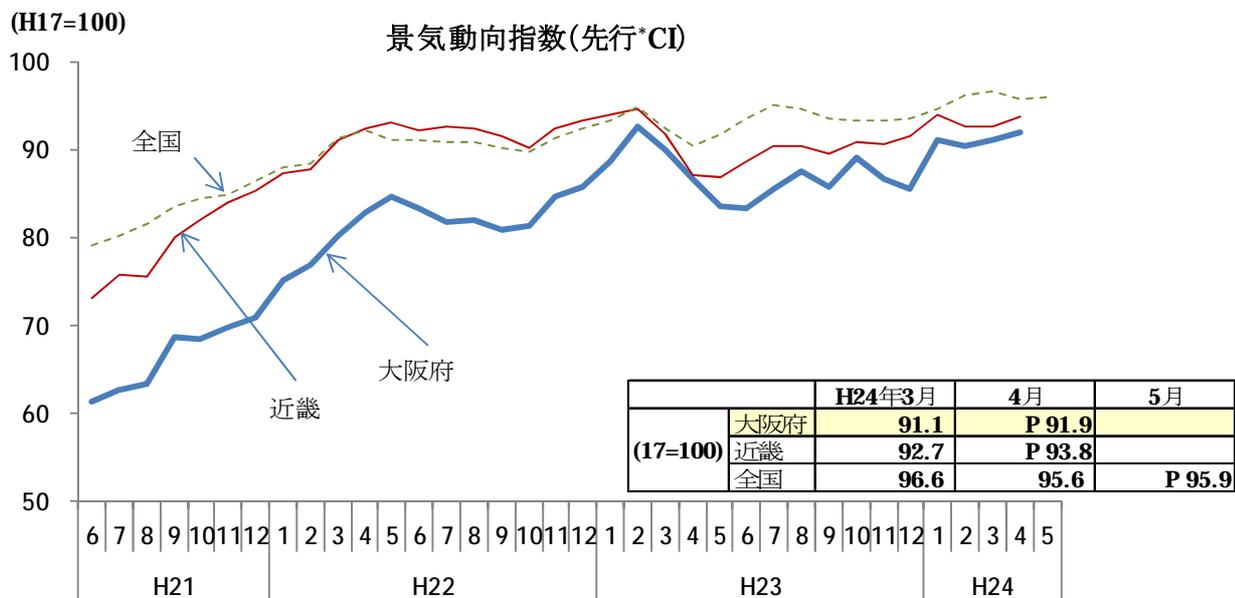
○景気動向指数(CI)【大阪府(4月)は一致が低下、先行は上昇。近畿は一致・先行とも上昇。大阪府(一致)は、主に所定外労働時間指数や生産財出荷指数などが低下に寄与。全国(5月速報)の一致は低下】



大阪府 CI(一致)、4月速報の個別系列の寄与度*

| 百貨店売場面積 当たり販売額 | 大阪税関管内輸 入通関額 | 製造工業生産指 数 | 生産財出荷指数 | 関西大口電力使 用量(合計) | 有効求人倍率 | 所定外労働時間 指数(製造業) |
|-------------------|-----------------|--------------|---------|-------------------|--------|--------------------|
| -0.06 | 0.04 | -0.23 | -0.35 | 0.57 | 0.33 | -0.80 |

*寄与度とは、CIの前月からの変化が、CIを合成する個別系列からどの程度もたらされたのかを示した数値。

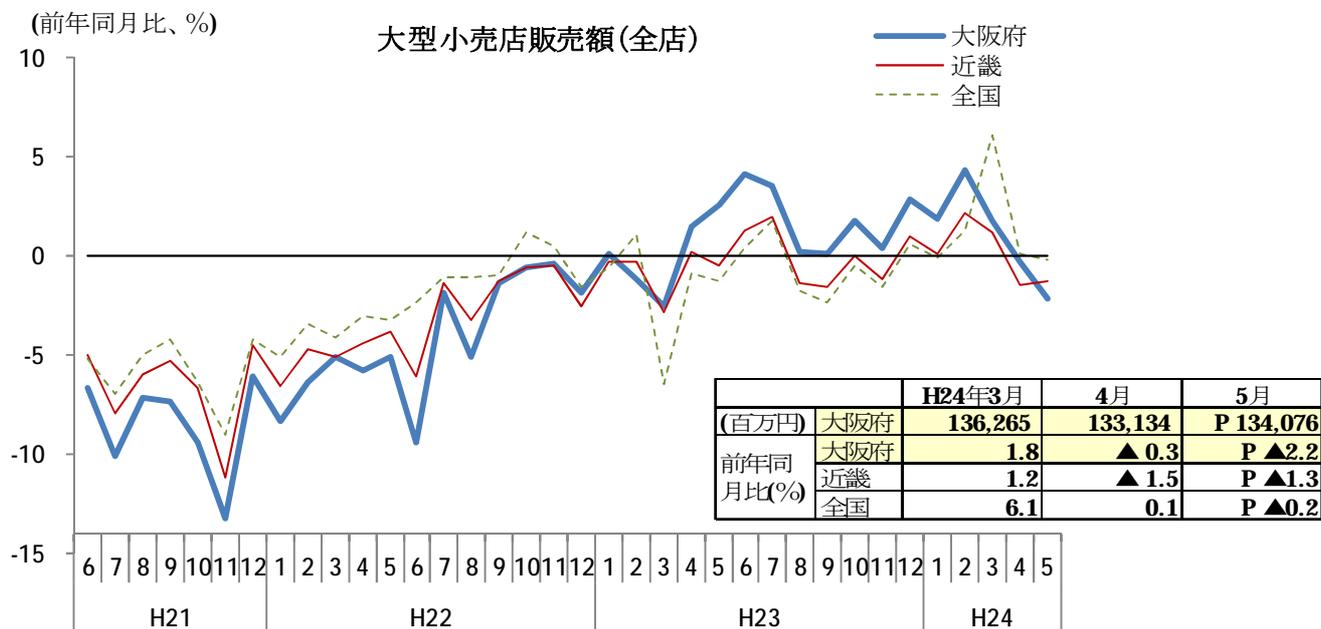


*先行 CI は、3ヶ月から半年程度、景気に先行する指標で構成されている。

[需要]個人消費

個人消費は、一部持ち直しの動きがみられるものの、やや弱含んでいる。大型小売店販売は開業効果の一巡等で減少。新車販売はエコカー補助金等の効果で大幅増。家電販売はテレビなどが減少。

○大型小売店販売額(全店)【前年同月の商業施設の新規開業に伴う売り上げ増の反動減等により、大阪府は2ヶ月連続の減少。】



(資料)近畿経済産業局「大型小売店販売状況」

商品別の主な増減(大阪府、全店、%(前年同月比)、5月速報)

| 増加 | 減少 |
|-------------|--------------|
| その他の商品(2.1) | 食堂・喫茶(▲15.4) |
| | 身の回り品(▲7.7) |

既存店ベースの増減(5月速報)

| 前年同月比(%) | 大阪府 | 近畿 | 全国 |
|----------|--------|--------|--------|
| | P ▲2.5 | P ▲1.6 | P ▲0.9 |

業態別の状況(大阪府、全店、5月速報)

| | 百貨店 | スーパー |
|----------|----------|----------|
| 販売額(百万円) | P 64,199 | P 69,877 |
| 前年同月比(%) | P ▲4.1 | P ▲0.4 |

○コンビニエンスストア販売額(全店)【近畿は8か月連続の増加】

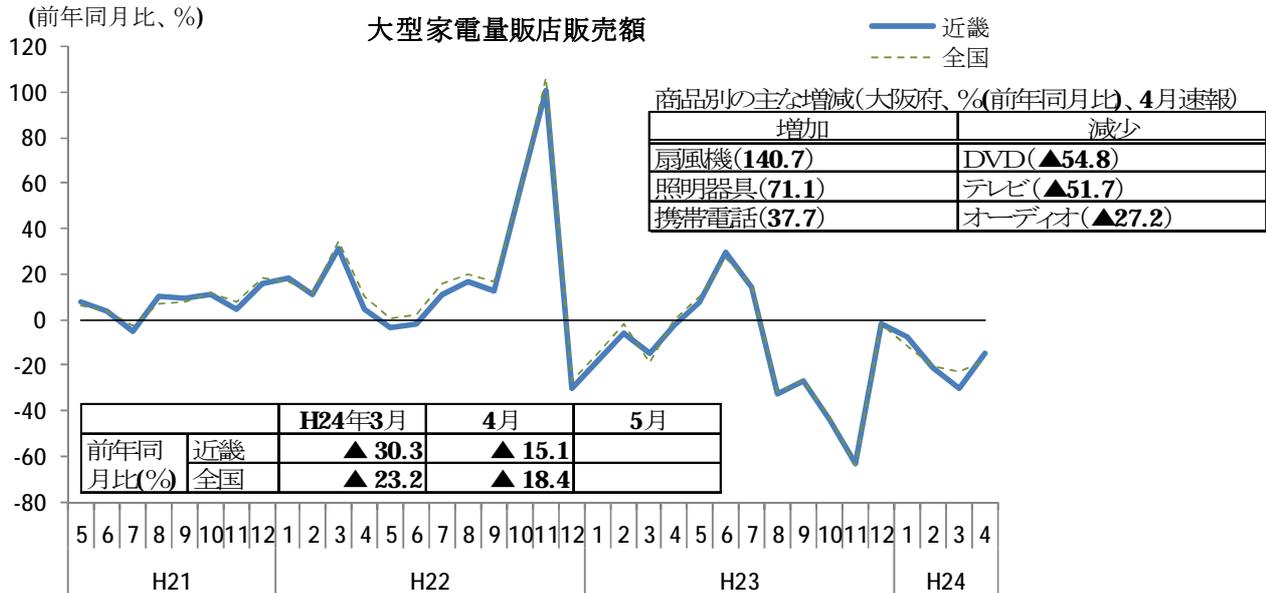
| | H24年3月 | 4月 | 5月 |
|-------------|---------|---------|---------|
| (百万円) 近畿 | 111,602 | 110,695 | 114,400 |
| 前年同月比(%) 近畿 | 2.3 | 9.0 | 5.1 |
| 前年同月比(%) 全国 | 4.4 | 10.3 | 6.0 |

(参考)大阪府内大型小売店へのヒアリングより

5月は、GW以降朝晩の気温が上がらず、肌着など一部夏物商品の動きが鈍かったものの、気温の上昇につれてカジュアル衣料品やUV関連商品が好調に推移した。ビジネスではスーツなど重衣料は動きが鈍いが、トートバッグ、シューズ、ニットワイシャツなど一部の品目で動きがみられた。なお、節電関連商品は各品目で動きがあるものの、震災特需の反動減などもあり、全体を押し上げるには至っていない。

[需要]個人消費

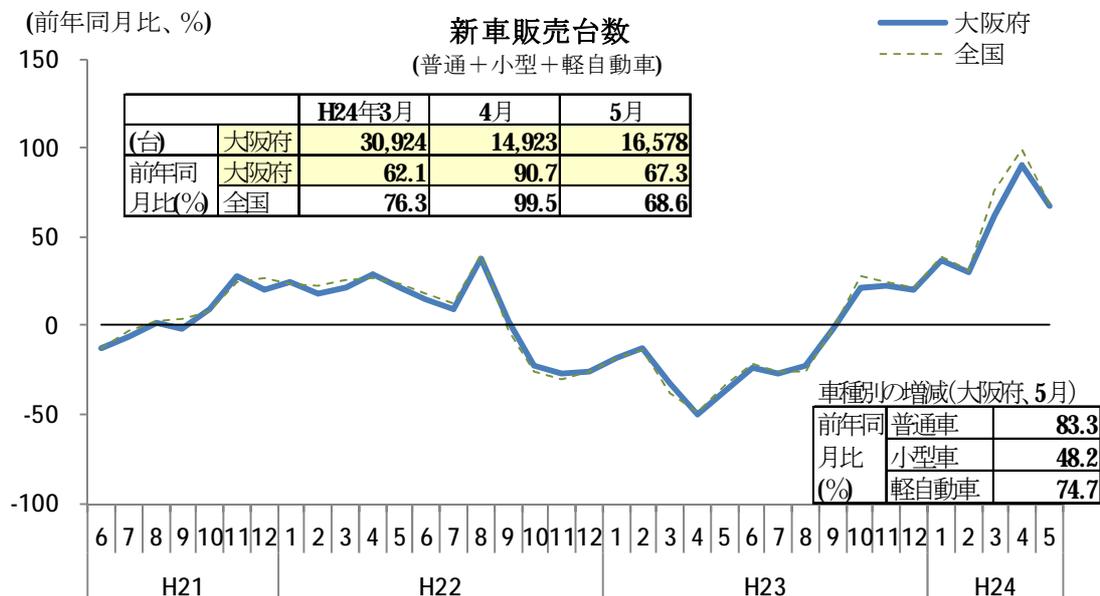
○大型家電量販店販売額【近畿(4月)は9か月連続の減少。DVD、テレビなどが減少したが、節電需要から、扇風機、照明器具などが増加】



(資料)近畿経済産業局「近畿経済の動向」

※平成23年4月分よりデータ集計対象企業が変更されたため、前後のデータと連続しない。

○新車販売台数【8か月連続の増加。エコカー補助金の復活やエコカー減税の延長、前年の震災の影響で激減した反動などで大幅増加】



(資料)社団法人日本自動車販売協会連合会、社団法人全国軽自動車協会連合会。

○家計消費支出【大阪市は増加】

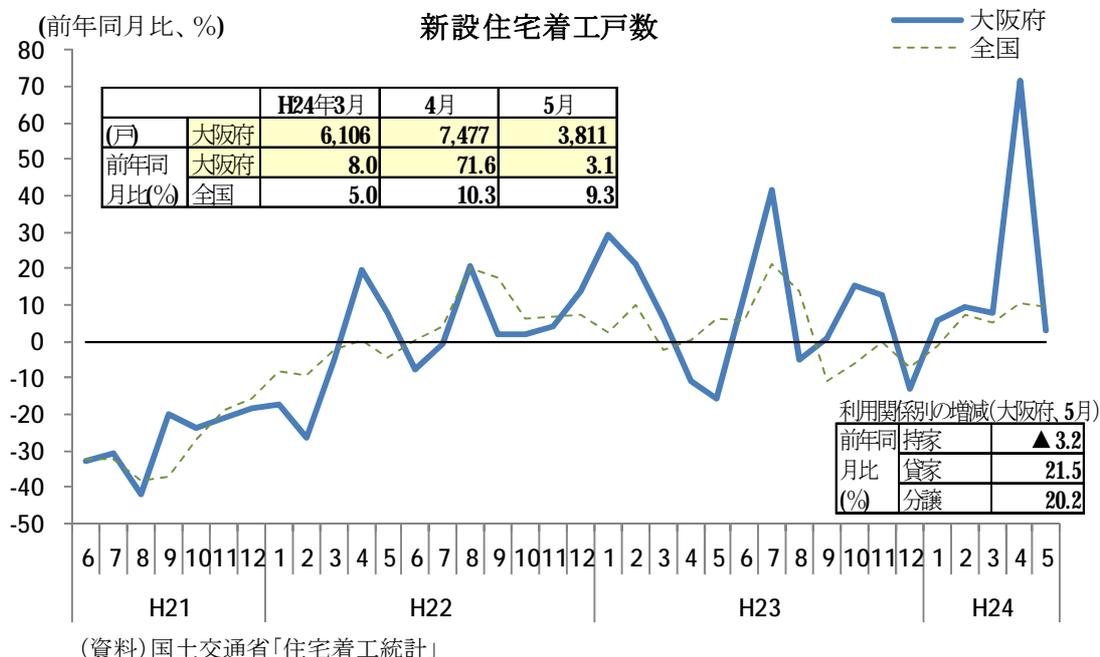
| | | H24年3月 | 4月 | 5月 |
|----------|-----|---------|---------|-----------|
| (円) | 大阪市 | 277,998 | 280,349 | P 263,062 |
| 前年同月比(%) | 大阪市 | 2.0 | 8.9 | P 6.1 |
| | 全国 | 4.1 | 3.2 | P 4.3 |

(資料)総務省「家計調査」 ※二人以上の世帯、一世帯当たりの名目。

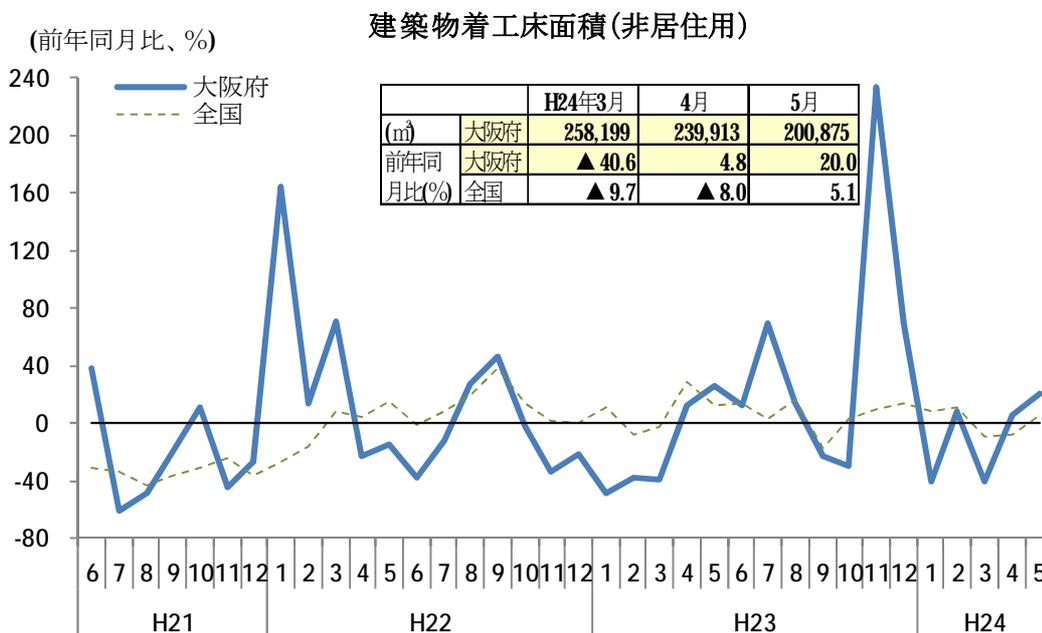
[需要]投資

住宅投資は、住宅エコポイント制度や住宅ローンの金利低下などにより持ち直しの動きがみられる。企業等の建設投資は、運輸業などを中心に増加したが、全国の機械受注は大幅減少。公共工事は増加。

○新設住宅着工戸数【5か月連続の増加。住宅エコポイント制度や住宅ローンの金利低下などが押し上げ】



○建築物着工床面積(非居住用)【大阪府は2か月連続の増加。その他のサービス、運輸などが増加】



(資料)国土交通省「建築着工統計」

着工床面積の主な増減(%(前年同月比の寄与度※)、5月)

| 増加 | 減少 |
|-----------------|---------------|
| その他のサービス業(21.4) | 医療福祉(▲25.4) |
| 運輸業(16.6) | 製造業(▲4.6) |
| 卸小売業(11.1) | 教育学習支援業(▲3.4) |

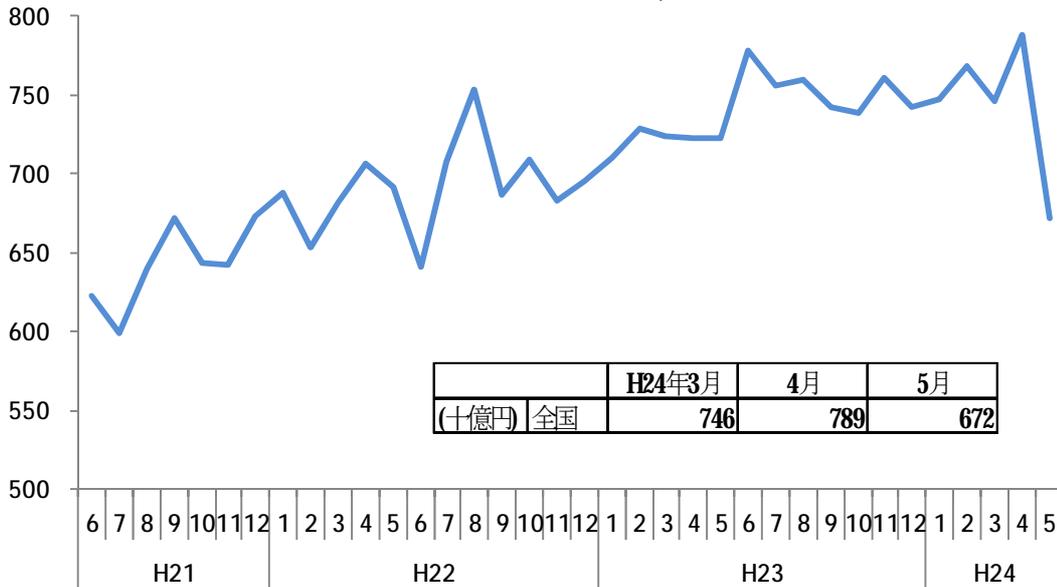
※寄与度とは、全体の増減率の要因として、各業種の増減がどの程度貢献しているのかを表す数値。各寄与度の合計が全体の前年同月比と一致する。

[需要]投資

○機械受注額【5月(全国)は大幅に減少】

(10億円)

機械受注額(全国)



(資料)内閣府「機械受注統計調査」 ※季節調整済。

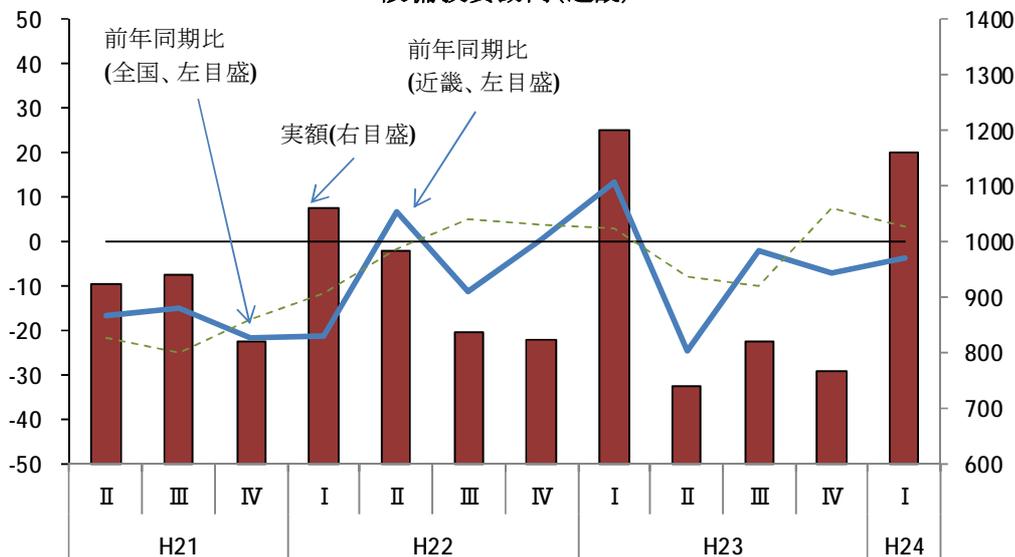
○近畿の設備投資動向【1～3月期は弱めの動き】

| | H23年7～9月 | 10～12月 | H24年1～3月 |
|-------------|----------|--------|----------|
| (十億円) 近畿 | 820 | 766 | 1,161 |
| 前年同期比(%) 近畿 | ▲1.9 | ▲7.1 | ▲3.5 |
| 全国 | ▲9.8 | 7.6 | 3.3 |

(前年同期比、%)

設備投資動向(近畿)

(10億円)



(資料)近畿財務局「法人企業統計調査」 ※設備投資動向は四半期ごとの調査、ソフトウェアを含む。

○公共工事請負金額【3か月ぶりの増加】

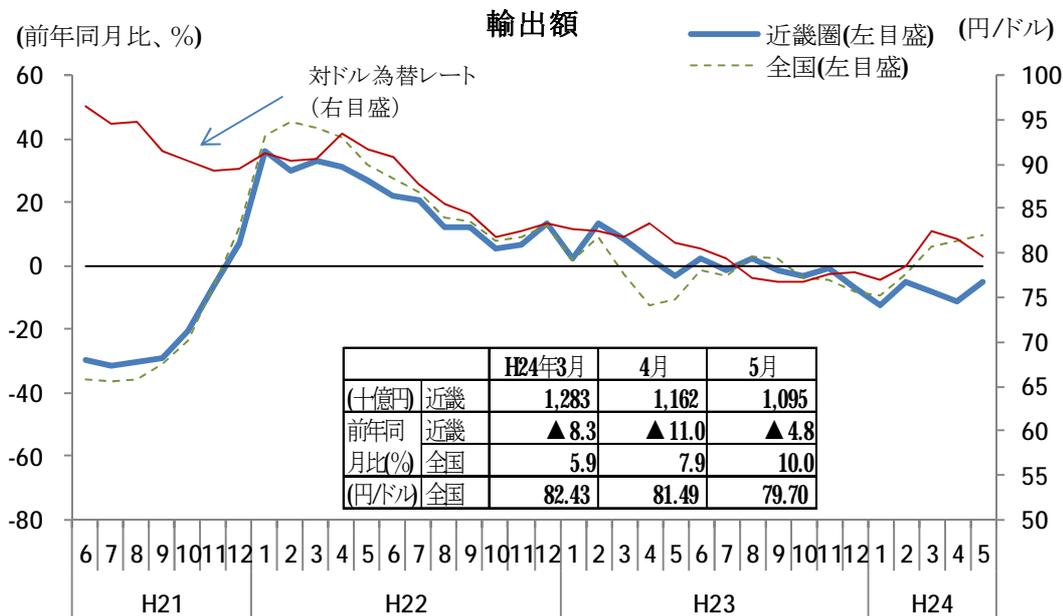
| | H24年3月 | 4月 | 5月 |
|--------------|--------|--------|--------|
| (百万円) 大阪府 | 35,303 | 44,279 | 47,201 |
| 前年同期比(%) 大阪府 | ▲22.5 | ▲25.5 | 26.7 |

(資料)西日本建設業保証㈱「公共工事前払保証統計」

[需要]貿易・貨物

輸出は、海外経済減速の影響で電子部品などが落ち込み、弱含んでいる。輸入は、原油・天然ガスなどが大幅に増加。取扱貨物量は、関空、大阪港とも減少。

○輸出額【9か月連続の減少。集積回路(中国向)、デジタルカメラなどが大きく減少。米国向け以外は減少】



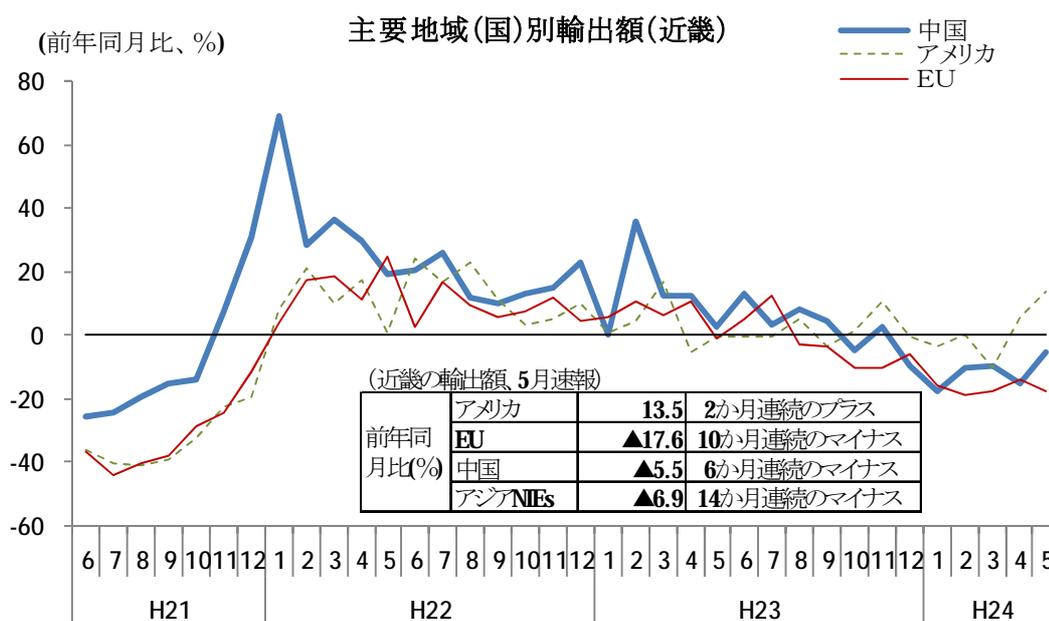
(資料)大阪税関「貿易統計」、日本銀行「時系列統計」

※対ドル為替レートは、東京インターバンク相場、ドル・円、スポット、中心相場/月中平均。

品目別の主な増減(近畿、前年同月から)の増減額(円、5月速報)

| 増加 | | 減少 | |
|-------|--------------------------|----------|-----------------|
| 原料品 | 白金のくず(ドイツ・米国向)など | 半導体等電子部品 | 集積回路(中国向)など |
| 鉱物 | 生燃料 重油(シンガポール向)など | 船舶白 | 新造貨物船(マーシャル向)など |
| 有機化合物 | ラクトン及びラクタム(プエルトリコ(米)向)など | 映像機器 | デジタルカメラ(中国向)など |

(出所)大阪税関「近畿圏貿易概況・速報」



(資料)大阪税関「貿易統計」

[需要]貿易・貨物

○輸入額【29 か月連続の増加。火力発電用燃料の需要増などにより、原油(サウジアラビア産)、液化天然ガス(カタール産)などが大きく増加】

| | H24年3月 | 4月 | 5月 |
|-------------|--------|-------|---------|
| (十億円) 近畿 | 1,189 | 1,170 | P 1,163 |
| 前年同月比(%) 近畿 | 1.2 | 2.5 | P 6.1 |
| 前年同月比(%) 全国 | 10.6 | 8.1 | P 9.3 |

主要地域(国)別の増減(近畿の輸入額、5月速報)

| | | | |
|----------|---------|------|------------|
| 前年同月比(%) | アメリカ | ▲6.1 | 4か月連続のマイナス |
| | EU | ▲9.9 | 3か月連続のマイナス |
| | 中国 | 6.4 | 2か月連続のプラス |
| | アジアNIEs | ▲9.5 | 3か月連続のマイナス |

品目別の主な増減(近畿、前年同月からの増減額割合、5月速報)

| 増加 | | 減少 | |
|------------|-----------------|--------------|--------------|
| 原油及び粗油 | 原油(サウジアラビア産)など | 音響・映像機器(含部品) | 液晶テレビ(中国産)など |
| 天然ガス及び製造ガス | 液化天然ガス(カタール産)など | | |
| 石油製品 | 揮発油(タイ産)など | | |
| 通信機 | 携帯電話(中国産)など | | |

(資料)大阪税関「貿易統計」

○関空取扱貨物量【世界経済や円高の影響から3ヶ月連続の減少】、大阪港コンテナ貨物取扱個数【3ヶ月連続の減少】

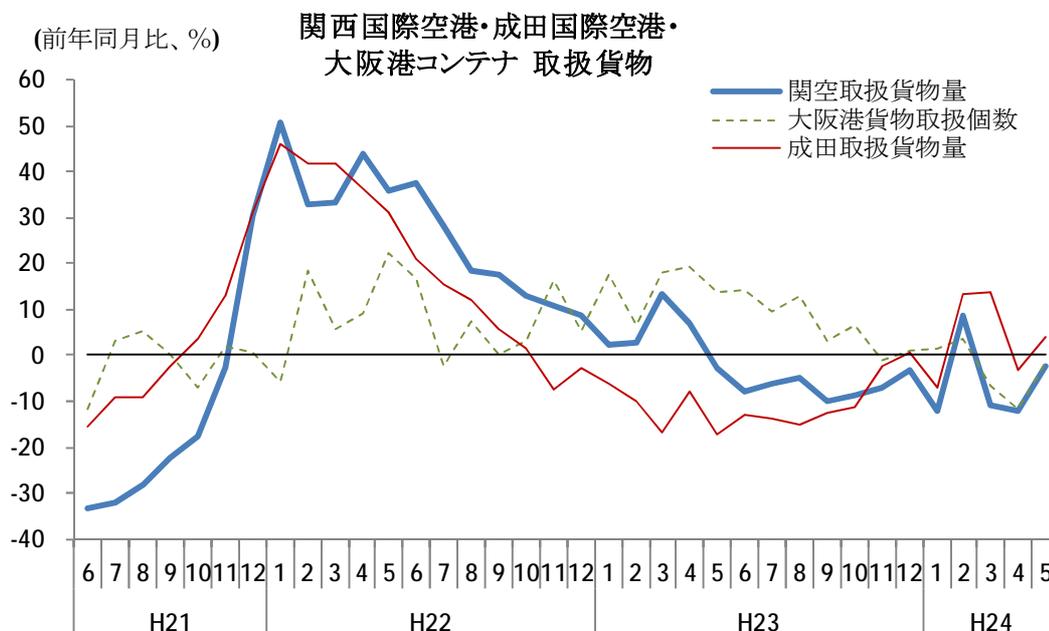
(関空取扱貨物量)

| | H24年3月 | 4月 | 5月 |
|----------|---------|---------|--------|
| (千トン) | P 64 | P 59 | P 57 |
| 前年同月比(%) | P ▲10.9 | P ▲12.3 | P ▲2.5 |

(大阪港コンテナ貨物取扱個数)

| | H24年3月 | 4月 | 5月 |
|----------|--------|----------|---------|
| (千TEU) | P 177 | PP 173 | PP 182 |
| 前年同月比(%) | P ▲6.5 | PP ▲11.8 | PP ▲1.3 |

※大阪港取扱貨物の PP は速速報。



(資料)関西国際空港株式会社「運営概況」、大阪市「港湾統計」、成田国際空港株式会社「運用状況」。

※関西・成田国際空港貨物取扱量はトン、大阪港コンテナ貨物取扱個数は TEU で、外貿の実入+空の合計。

※TEU とは、コンテナ船の積載能力を示す単位で、1TEU は 20 フィートコンテナ 1 個分を示す。

[供給]生産

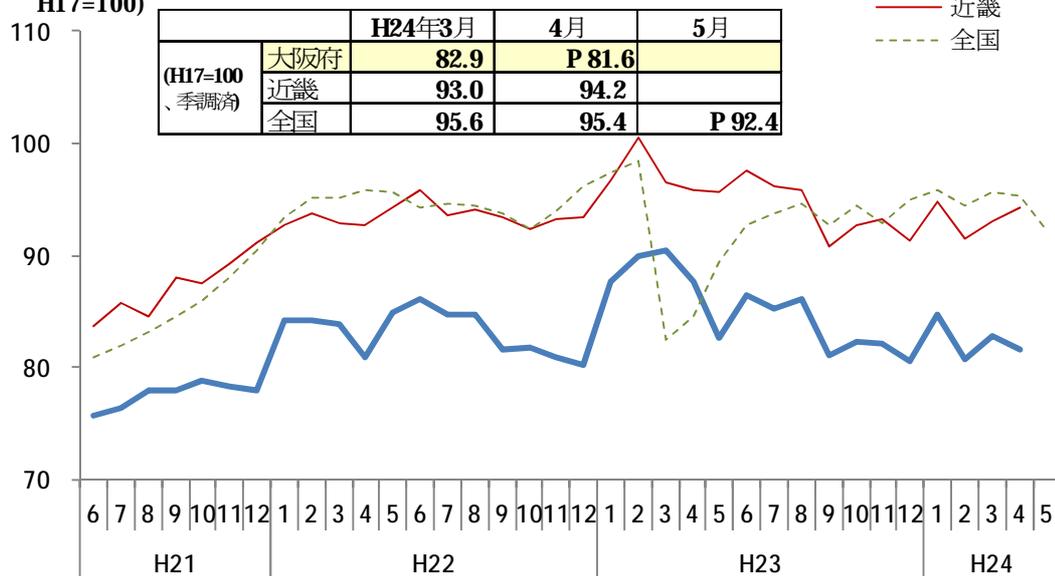
大阪府(4月)の生産は低下、出荷は低下、在庫は上昇するなど弱めの動き。生産は、電子部品・デバイス、電気機械などが低下。全国は5月も生産が低下。

○鉱工業生産指数【大阪府(4月)は2ヶ月ぶりの低下。電子部品・デバイス、電気機械などが低下。近畿(4月)は2ヶ月連続の上昇。全国(5月)は低下】

(季節調整済、

H17=100)

鉱工業生産指数



(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」

※大阪府は製造工業指数。

産業別の主な変動(大阪、()内は%(前月比)、寄与率順、4月速報)

| 上昇 | | 低下 | |
|-----------|-----------------------|------------------|-------------------|
| 化学(8.0) | 化粧品、カプロラクタム等 | 電子部品・デバイス(▲28.4) | 液晶素子等 |
| 一般機械(4.4) | 一般用バルブ・コック、ショベル系掘削機械等 | 電気機械(▲10.3) | セパレート形エアコン、蛍光灯器具等 |
| 家具(10.5) | システムキッチン等 | 鉄鋼(▲4.3) | 鋼矢板、H形鋼等 |

(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」

○鉱工業出荷指数【大阪府(4月)は2ヶ月ぶりの低下。情報通信機械、石油・石炭製品などが低下。近畿(4月)は2ヶ月連続の上昇。全国(5月)は低下】

| | | H24年3月 | 4月 | 5月 |
|---------------------|-----|--------|--------|--------|
| (H17=100、 季節調整済) | 大阪府 | 84.3 | P 80.3 | |
| | 近畿 | 93.8 | 94.0 | |
| | 全国 | 95.8 | 96.4 | P 95.0 |

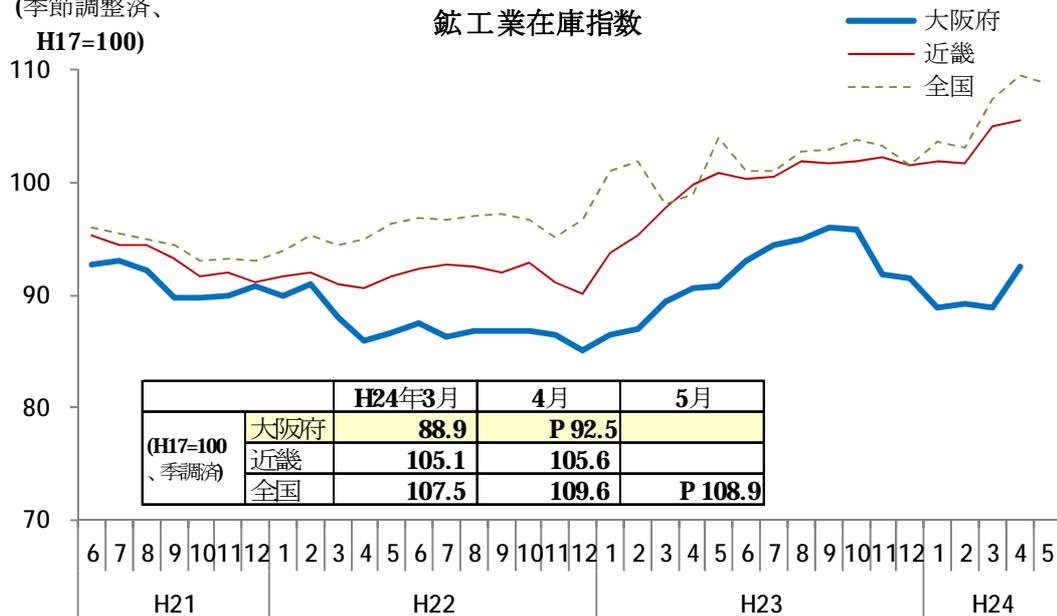
(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」

※大阪府は製造工業指数

[供給]生産

○鉱工業在庫指数【大阪府(4月)は2ヶ月ぶりの上昇。一般機械、化学などが上昇。近畿(4月)は2ヶ月連続の上昇。全国(5月)は低下】

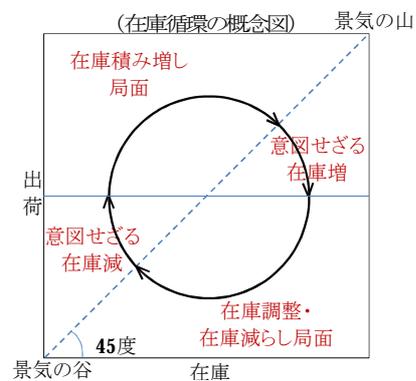
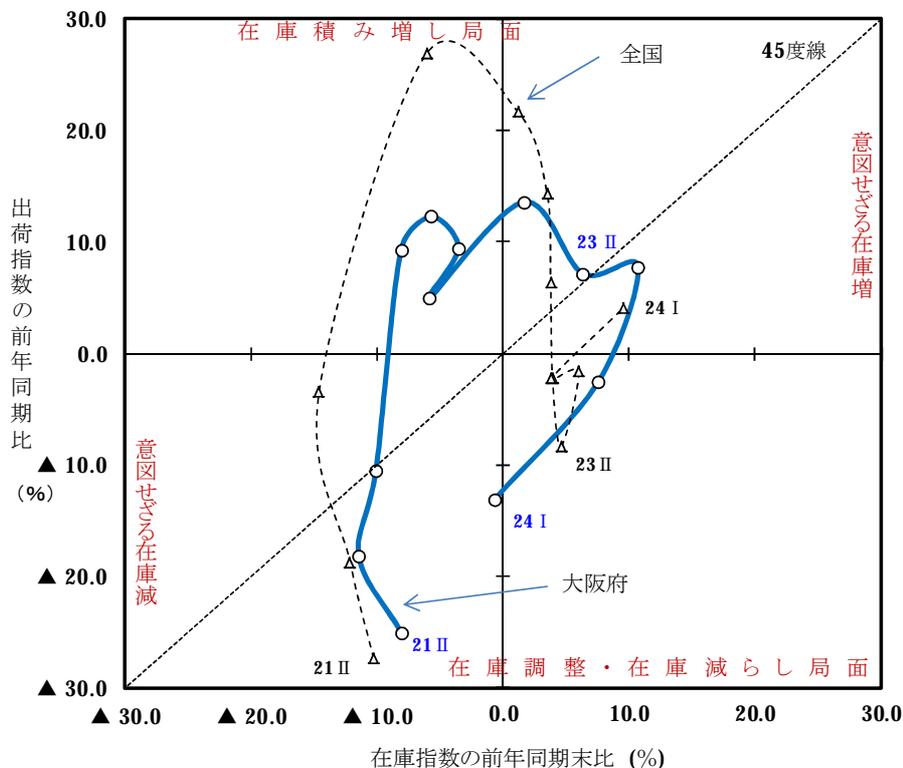
(季節調整済、
H17=100)



(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」

※大阪府は製造工業指数

○在庫循環図【大阪府は在庫調整・在庫減らし局面。全国は意図せざる在庫増】



(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」、内閣府「鉱工業の在庫循環図と概念図」

※出荷指数は原数値の四半期平均。在庫指数は原数値の四半期期末月の数値。大阪府は製造工業指数。四半期は暦年ベース。

[供給]雇用

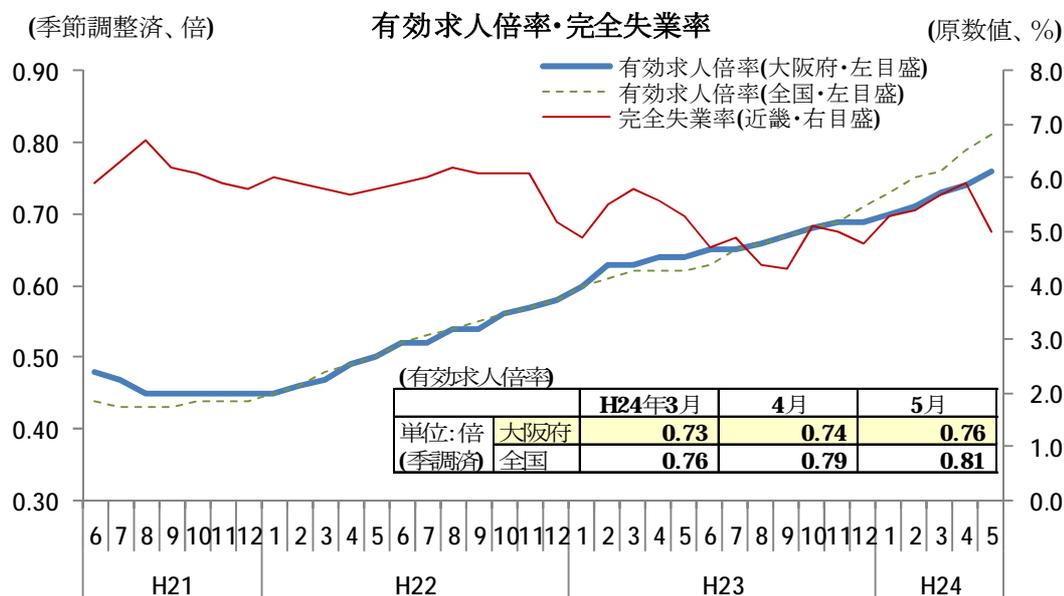
近畿の失業率は改善。有効求人倍率・新規求人倍率も上昇し、雇用は持ち直しの傾向が続いている。

○完全失業率【近畿(5月)は前年同月差で2ヶ月ぶりの低下(改善)。大阪(1～3月期)は5期連続低下(改善)】、有効求人倍率【大阪は5ヶ月連続の上昇】

(完全失業率)

| | | H24年3月 | 4月 | 5月 |
|-------|-----|----------|--------|----------|
| (%) | 近畿 | 5.7 | 5.9 | 5.0 |
| 前年同月差 | 近畿 | ▲0.1 | 0.3 | ▲0.3 |
| (%) | 全国 | 4.5 | 4.6 | P 4.4 |
| 前月差 | 全国 | 0.0 | 0.1 | P ▲0.2 |
| | | H23年7～9月 | 10～12月 | H24年1～3月 |
| (%) | 大阪府 | 4.5 | 4.7 | 5.3 |

※近畿は原数値、全国は季節調整済、大阪府はモデル推計による参考値。



(資料)厚生労働省「職業安定業務統計」、「労働力調査」 ※有効求人倍率はパートを含む。

若年者の有効求人倍率(大阪府、5月)

| | | |
|-----|--------|------|
| (倍) | 24歳以下 | 0.71 |
| | 25～34歳 | 0.70 |

(資料)厚生労働省「職業安定業務統計」

※就職機会積み上げ方式、パートを含む。

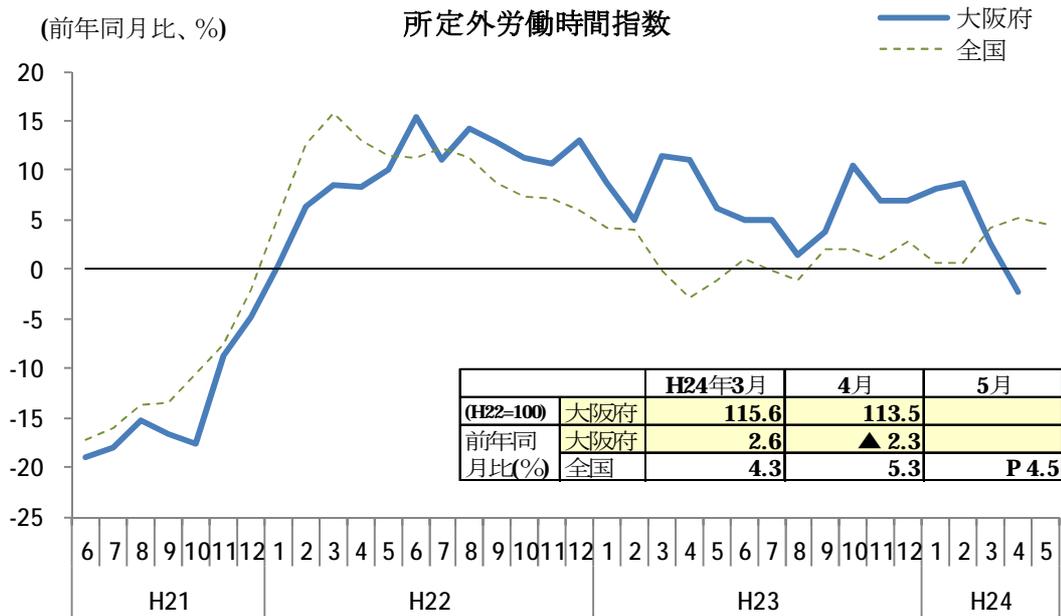
○新規求人倍率【大阪府は上昇】

| | | H24年3月 | 4月 | 5月 |
|-------|-----|--------|------|------|
| 単位: 倍 | 大阪府 | 1.21 | 1.20 | 1.26 |
| (季調整) | 全国 | 1.19 | 1.28 | 1.35 |

(資料)厚生労働省「職業安定業務統計」 ※パートを含む。

[供給]雇用

○所定外労働時間指数【大阪府(4月)は減少。主に宿泊業, 飲食サービス業などが減少】



(資料)大阪府統計課「毎月勤労統計調査地方調査」、総務省「毎月勤労統計調査」

※H22=100、事業所規模5人以上。

産業別所定外労働時間の主な増減(大阪府、%(実数の前年同月比)、4月)

| 増加 | 減少 |
|------------------|--------------------------|
| 教育, 学習支援業 (27.8) | 宿泊業, 飲食サービス業 (▲43.2) |
| 運輸業・郵便業 (16.5) | 不動産業・物品賃貸業 (▲22.9) |
| 情報通信業 (14.5) | 学術研究, 専門・技術サービス業 (▲14.4) |

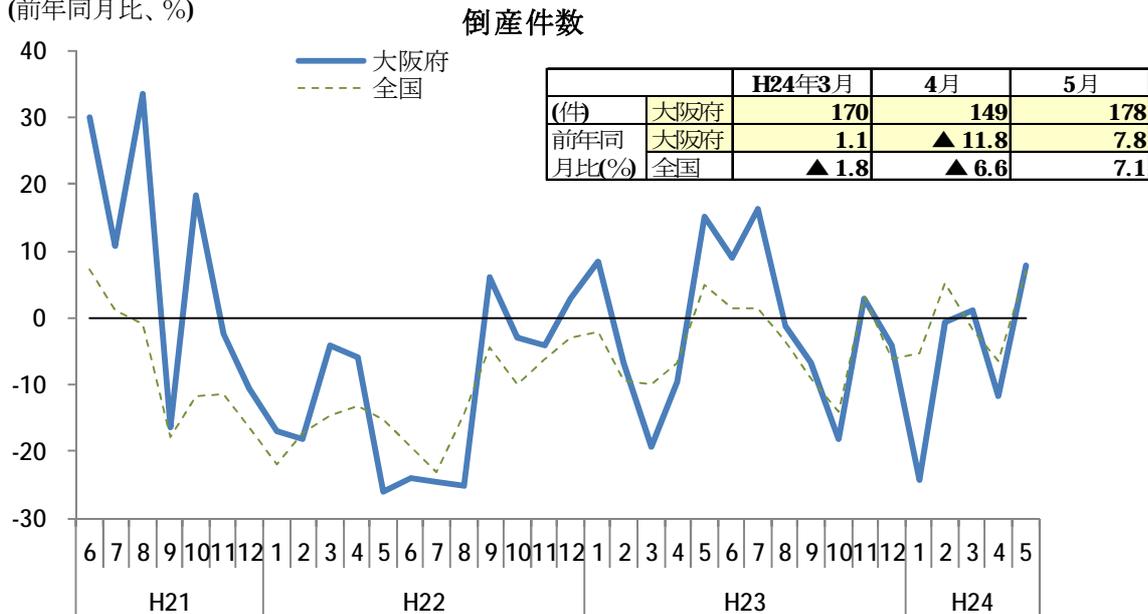
(資料)大阪府統計課「毎月勤労統計調査地方調査」

※事業所規模5人以上

[供給]倒産

○倒産件数【2か月ぶりの増加(悪化)】

(前年同月比、%)



(資料)東京商工リサーチ「倒産月報」

○負債金額【2か月ぶりの増加(悪化)】

| | | H24年3月 | 4月 | 5月 |
|-------|-----|--------|--------|--------|
| (百万円) | 大阪府 | 18,951 | 22,923 | 19,493 |
| 前年同 | 大阪府 | 34.4 | ▲13.3 | 19.1 |
| 月比(%) | 全国 | 23.5 | ▲18.1 | 11.8 |

大阪府の主な倒産(5月)

| 業種 | 負債額(百万円) | 倒産原因 |
|------------------|----------|---------|
| FRP 製品、PVC 原料ほか卸 | 4,370 | 販売不振 |
| 不動産取得・保有ほか | 4,000 | 放漫経営 |
| 鋼板加工販売 | 1,200 | 他社倒産の余波 |
| 鉄骨加工、組立工事 | 848 | 販売不振 |
| 船舶用品卸 | 800 | 販売不振 |

(資料)東京商工リサーチ「倒産月報」

件数の多い業種(大阪府、単位:件、5月)

| | |
|-----------------|----|
| 建設業 | 31 |
| 飲食業 | 20 |
| 不動産業 | 13 |
| 学術研究、専門・技術サービス業 | 9 |

(資料)東京商工リサーチ資料

資本金別倒産状況(大阪府、5月)

| | 件数(件) | 構成比(%) |
|-------------|-------|--------|
| 1億以上 | 1 | 0.6 |
| 5千万以上・1億未満 | 3 | 1.7 |
| 1千万以上・5千万未満 | 46 | 25.8 |
| 5百万以上・1千万未満 | 15 | 8.4 |
| 1百万以上・5百万未満 | 36 | 20.2 |
| 1百万未満 | 1 | 0.6 |
| 個人企業他 | 76 | 42.7 |
| 合計 | 178 | 100.0 |

(資料)東京商工リサーチ資料

その他[物価]

○消費者物価指数【大阪市の生鮮食品を除く総合指数は低下。食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数も低下。主に電気洗濯機、電子レンジ、電気冷蔵庫などが低下】

(生鮮食品を除く総合指数)

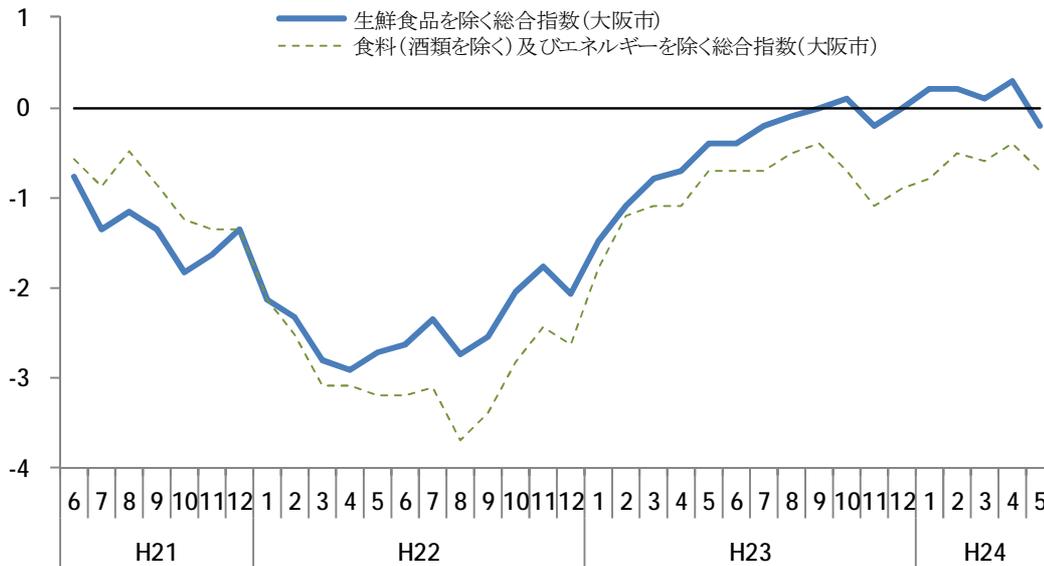
| | | H24年3月 | 4月 | 5月 |
|-----------|-----|--------|------|------|
| (H22=100) | 大阪市 | 99.6 | 99.9 | 99.6 |
| 前年同 | 大阪市 | 0.1 | 0.3 | ▲0.2 |
| 月比(%) | 全国 | 0.2 | 0.2 | ▲0.1 |

(食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合指数)

| | | H24年3月 | 4月 | 5月 |
|-----------|-----|--------|------|------|
| (H22=100) | 大阪市 | 98.7 | 98.9 | 98.8 |
| 前年同 | 大阪市 | ▲0.6 | ▲0.4 | ▲0.7 |
| 月比(%) | 全国 | ▲0.5 | ▲0.3 | ▲0.6 |

消費者物価指数

(前年同月比、%)



(資料)大阪府統計課「大阪市消費者物価指数」、総務省「消費者物価指数」

※H22=100

主に変動した分類(大阪市、%(前年同月比)、5月速報)

| 上昇 | 低下 |
|----------------------------|-----------------------------------|
| 果物(9.6) メロン、りんご、スイカなど | 家庭用耐久財(▲14.0) 電気洗濯機、電子レンジ、電気冷蔵庫など |
| 野菜・海藻(9.3) トマト、だいこん、かぼちゃなど | 教養娯楽用耐久財(▲13.8) ビデオカメラ、パソコンなど |
| ガス代(7.6) 都市ガス代、プロパンガスなど | 履物類(▲7.3) 婦人靴、男子靴、スリッパなど |
| 他の光熱(5.7) 灯油など | |

その他[物価]

○企業物価指数【原材料価格の低下により、国内企業物価指数、輸出物価指数、輸入物価指数いずれも低下】

(国内企業物価指数)

| | | H24年3月 | 4月 | 5月 |
|----------|----|--------|------|--------|
| 前年同月比(%) | 全国 | 0.5 | ▲0.3 | P ▲0.5 |

(輸出物価指数)

| | | H24年3月 | 4月 | 5月 |
|----------|----|--------|------|--------|
| 前年同月比(%) | 全国 | 0.1 | ▲3.0 | P ▲3.4 |

(輸入物価指数)

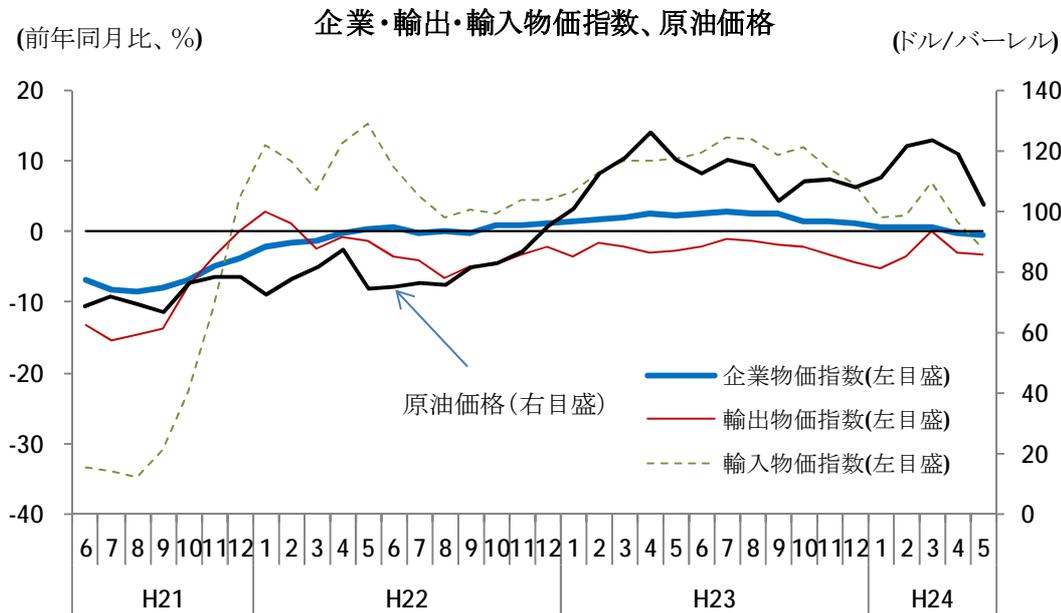
| | | H24年3月 | 4月 | 5月 |
|----------|----|--------|-----|--------|
| 前年同月比(%) | 全国 | 7.0 | 1.3 | P ▲2.5 |

(原油価格)

| | | H24年3月 | 4月 | 5月 |
|----------|--|--------|--------|--------|
| (ドル/バレル) | | 123.28 | 119.08 | 102.15 |

※H22=100

※北海ブレント・スポット・月末。



(資料) 日本銀行「企業物価指数」、日本銀行「金融経済統計月報」

※輸出・輸入物価指数は円ベース。原油価格は、北海ブレント・スポット・月末。

※物価指数は、H22=100。

国内企業物価指数の前月比変化に寄与した主な類別・品目(5月速報)

| 類別 | 寄与度(%) | 寄与した主な品目 |
|---------|--------|--------------------|
| 石油・石炭製品 | ▲0.30 | ガソリン、経油、灯油 |
| 非鉄金属 | ▲0.07 | 銅地金、プラスチック被覆銅線、銀地金 |
| 化学製品 | ▲0.05 | エチレン、プロピレン |
| 鉄鋼 | ▲0.03 | 鉄鋼切断品(厚中板)、ステンレス鋼板 |
| スクラップ類 | ▲0.03 | 鉄くず |

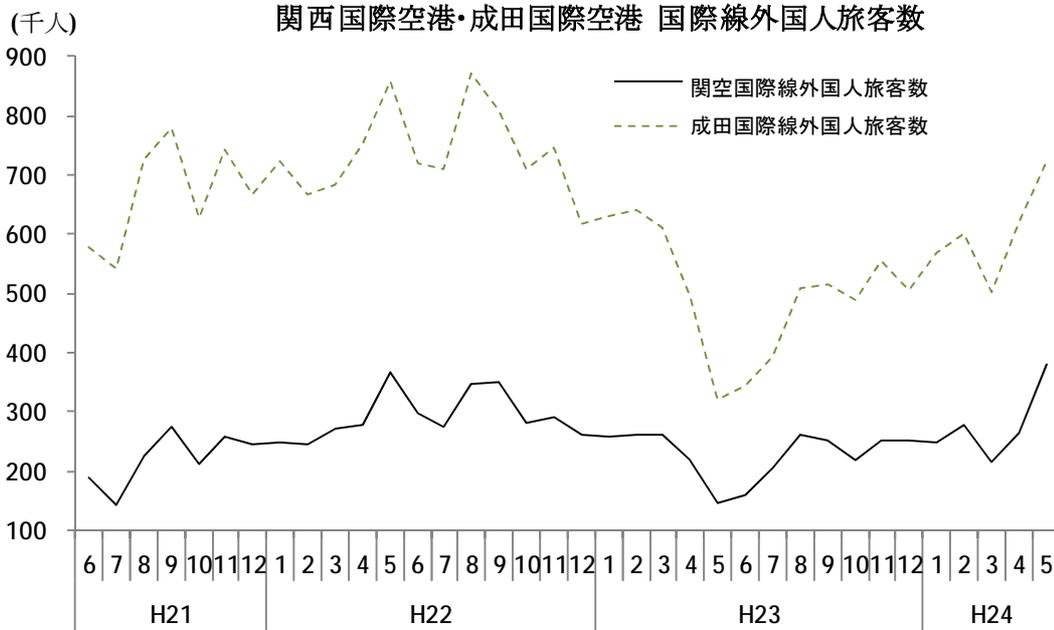
(出所) 日本銀行調査統計局「企業物価指数」

その他[観光]

○関西国際空港 国際線外国人旅客数【3ヶ月連続の増加。前年同月の震災による反動増】

(関空外国人旅客数)

| | H24年3月 | 4月 | 5月 |
|----------|--------|---------|--------|
| (千人) | P 266 | P 379 | P 275 |
| 前年同月比(%) | P 21.6 | P 158.5 | P 71.5 |

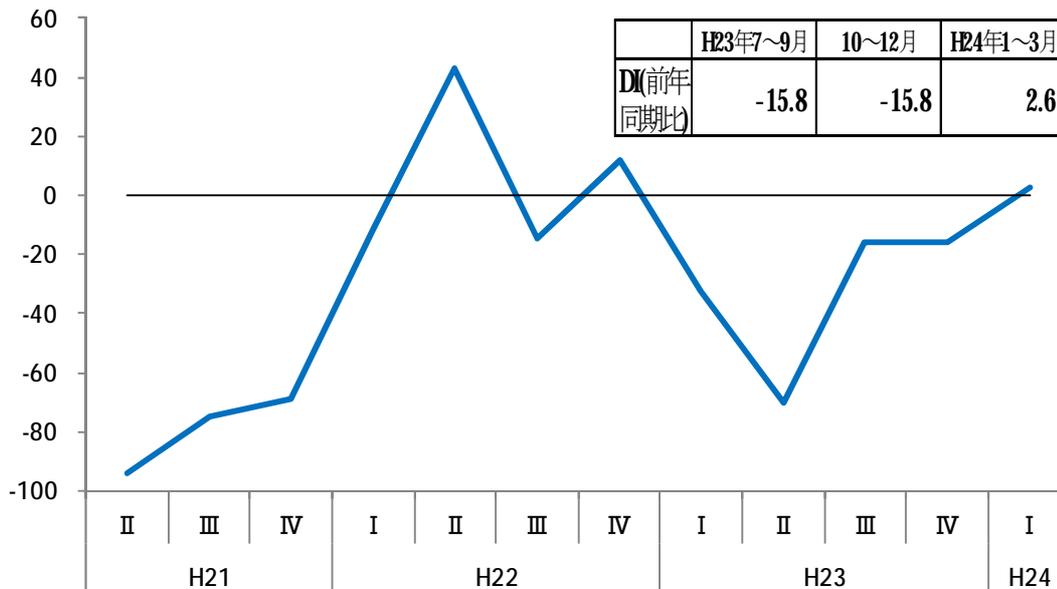


(資料) 関西国際空港株式会社「運営概況」、成田国際空港株式会社「運用状況」。

○ビジット大阪指数(DI)【1～3月期は前年同期比で上昇】

(前年同月比、DI)

ビジット大阪指数



(資料) 大阪府国際交流・観光課「大阪府観光統計調査」。

※四半期は暦年ベース。DI:「好調」の割合(%)－「不調」の割合(%)。

[トピックス]

○関電管内の電力不足による関西経済への影響

(りそな総合研究所 (2012年6月15日) <https://www2.rri.co.jp/chiiki/pdf/setsuden1206.pdf>)

今夏の節電による関西経済への影響: ▲0.1% (関西の年間 GDP 比)

(備考)

- ・15%の節電要請に基づく企業の節電対策が、関西経済に及ぼす影響を試算。
- ・計画停電の実行は想定せず。

(予想の考え方)

- ・推計の前提となる「15%の節電要請の下で企業がどういった行動を取るか」については、経済団体のアンケート調査などを参考とした。
- ・節電期間中に追加的な節電要請や計画停電が行われないという前提。
- ・節電要請は、あくまで企業の自主努力に任されているため、多くの企業の取り組みは、生産や販売に影響が出ない範囲にとどまる可能性が高い。
- ・ただし、昨年以降の企業の取り組みを勘案すると、節電効果が昨年を上回る可能性は十分にある。
- ・一方、家計による節電関連消費の増加を加味すると、悪影響の一部は軽減されることとなる。ただし、節電自体が消費マインドを押し下げ、消費全体が減少する可能性があることにも注意が必要。
- ・この推計結果は、原発再稼働による節電目標の多少の緩和では大きな影響は受けないと見られる。
- ・推計は、期間中の生産や販売の減少に限ったもので、設備投資の延期や他地域へのシフトは計算に入っていない。電力不足による見えざる影響として、設備投資の停滞は大きな問題である。